

# SUSTAINABILITY REPORT

# 2023



## 株式会社ジャパンセミコンダクター

|      | 岩手事業所                      | 大分事業所                | 川崎分室                   |
|------|----------------------------|----------------------|------------------------|
| 代表者  | 取締役社長 川越 洋規                |                      |                        |
|      | 事業所長 大橋 良廣                 | 事業所長 仮屋園 展史          | —                      |
| 所在地  | 岩手県北上市北工業団地<br>6番6号        | 大分県大分市大字松岡<br>3500番地 | 神奈川県川崎市幸区堀川町<br>580番地1 |
| 従業員  | 2,000名                     |                      |                        |
| 生産品目 | アナログ・パワー、MCU、リニアイメージセンサ など |                      | —                      |

・・・誠実に、そして確実に一步！ 環境を創造する・・・

時代と環境の変化をとらえ、社会の発展に貢献する企業を目指します

## □社長の環境方針



2023年 4月 1日  
取締役社長 川越洋規

### ご挨拶

当社は、2箇所の製造拠点をもち、岩手事業所は奥羽、北上の両山系と北上川、大分事業所は高尾山、大野川といった美しい自然に恵まれた土地に位置しており、この豊かな環境に配慮することが私たちの使命であると考えます。

両事業所が地域に根ざし、地元の皆様との協調・連帯を図ると共に、SDGs※1を念頭に置き、調達から製造・廃棄に至る全ての事業プロセスにおいてもライフサイクルの視点に立って環境を意識した企業経営を実践し、半導体製品の提供を通じて社会に貢献することを目指します。

※1 SDGs : Sustainable Development Goals  
(持続可能な開発目標)

## お約束します

### 1. 倫理観と継続性

- 1) 当社の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を遵守し、コンプライアンスの徹底を図ります。
- 2) 環境活動レベル及び環境パフォーマンスの向上を図るため、監査と活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、環境経営の効果的な運用を推進します。

### 2. 実行

企業活動の実行においては、全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の予防などに関する環境目標を設定して、全員で積極的な環境施策を展開します。

- 1) 気候変動緩和のため、カーボンニュートラルに向けた取り組みにより温室効果ガスの排出を抑制します。
- 2) 循環経済への対応のため、生産性の向上、廃棄物の総排出量削減に向けた5R※2活動の実施、水資源の受入量削減施策により資源の有効活用を推進します。
- 3) 常に最新の情報を入手し法令管理の強化を図るとともに、環境リスク低減のため、使用する化学物質を適正管理し、取扱量及び排出量の削減を推進します。
- 4) 自然との共生を図るため、生物多様性の維持・回復に取り組めます。
- 5) ステークホルダーとの相互理解促進のため、コミュニケーションや地域・社会との連携に取り組めます。
- 6) 環境に配慮した企業活動の実践のため、自ら進んで行動する従業員を育成します。

※2 5R : 3R(Reduce, Reuse, Recycle) + 2R(Refuse, Repair)

この環境方針を社内外に開示するとともに、本組織で働く全ての人々に方針を周知し、方針に沿った企業活動を推進します。

## □カーボンニュートラルに関する方針

東芝グループ方針に沿い、2050年度までにカーボンニュートラルを実現

### 《中期方針》

2030年度までに自社事業活動(電力由来、自社排出)によるGHGを100%削減する。

### 《取組》

電力由来GHG

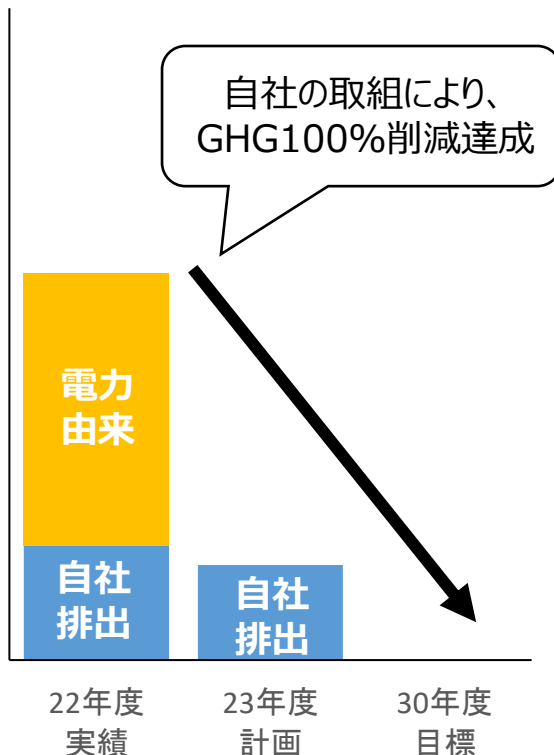
- (1)省エネルギーの促進
- (2)自然エネルギー発電設備の導入
- (3)再エネ由来電力の調達

自社排出GHG

- (1)プロセスガス、燃料ガス削減施策の実行
- (2)温室効果が高いガスの代替化検討
- (3)プロセスガスの除害

※ GHG : Greenhouse Gas (温室効果ガス)

### GHG排出量のイメージ



## □自然エネルギー発電設備の導入

当社では東芝グループの国内半導体製造拠点として初めてオンサイトPPAモデルを導入する。2023年度から使用電力の実質再エネ100%化を達成しているが、更に太陽光発電設備の稼働と組み合わせることで再エネ手段のベストミックスを図っていく。

大分事業所では太陽光発電設備の設置工事を2023年6月に開始し、2024年4月に稼働開始を予定している。また、岩手事業所でも2025年稼働開始を目標に準備中である。



ジャパンセミコンダクター大分事業所 太陽光発電完成予想図

※PPA : Power Purchase Agreement (電力販売契約) の略。オンサイトPPAモデルは、発電事業者が電力需要家の敷地や屋根等のスペースを利用して発電設備を設置し、直接再エネ電力を販売。

## □再エネ由来電力の調達

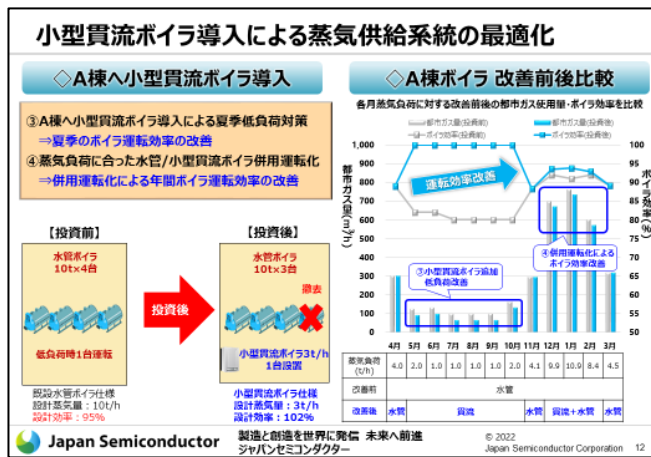
2023年4月より、自社で使用した全電力量分をCO<sub>2</sub>排出量がゼロになる再エネ由来電力の環境価値証書を用いて、実質再エネ100%化を達成。

## 燃料ガス削減施策の取組

大分事業所では、「事業所内の蒸気供給最適化による省エネ活動」の取組において、「令和4年度 省エネ大賞（後援：経済産業省）省エネルギーセンター会長賞」を受賞。

### 《取組内容》

事業所内の蒸気漏れ、放熱ロスの徹底削減として、所内各棟間の蒸気供給系統の見直しや水管ボイラと新設小型貫流ボイラの併用による必要蒸気予測等による効率化運転、蒸気供給圧力の適正化等を実施。その結果、事業所全体で使用する都市ガスを年間447,890m<sup>3</sup>削減した。



## プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律への対応

当社の廃プラスチック屑は、全体で182.9t排出している。

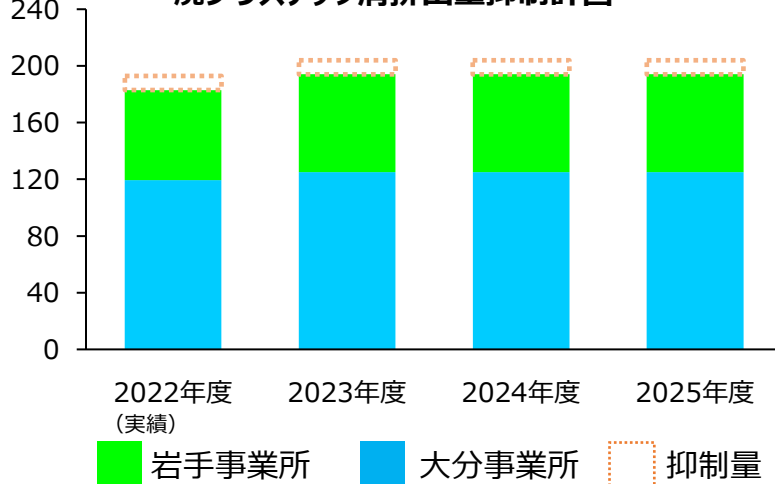
排出された廃プラスチック屑は、全てプラスチック原料や焼却時の燃料として有効利用されている。

引き続き、排出量抑制の取り組みを行っていく。

### 《廃プラスチック排出量(2022年度)》 (t/年)

|       | 有価物<br>(原料又は燃料) | 廃棄物<br>(燃料又は原料) | 合計    |
|-------|-----------------|-----------------|-------|
| 岩手事業所 | 10.8            | 52.6            | 63.4  |
| 大分事業所 | 30.7            | 88.8            | 119.5 |
| 合計    | 41.5            | 141.4           | 182.9 |

### 廃プラスチック屑排出量抑制計画



### 《主な抑制施策》

- 1) ウェーハケース等容器の通い化
- 2) 購入品等の梱包材の削減
- 3) 容器や梱包材のリユース
- 4) 生産効率向上等





## □ 環境マネジメントシステム

環境を第一に考え、継続的に改善する仕組みを運用

◆ ISO14001 第三者機関認証  
ISO14001:2015 規格での認証を取得しています。

◆ 環境経営内部監査  
システム監査、遵法監査、現場監査により環境問題の発生を未然に防ぎます。

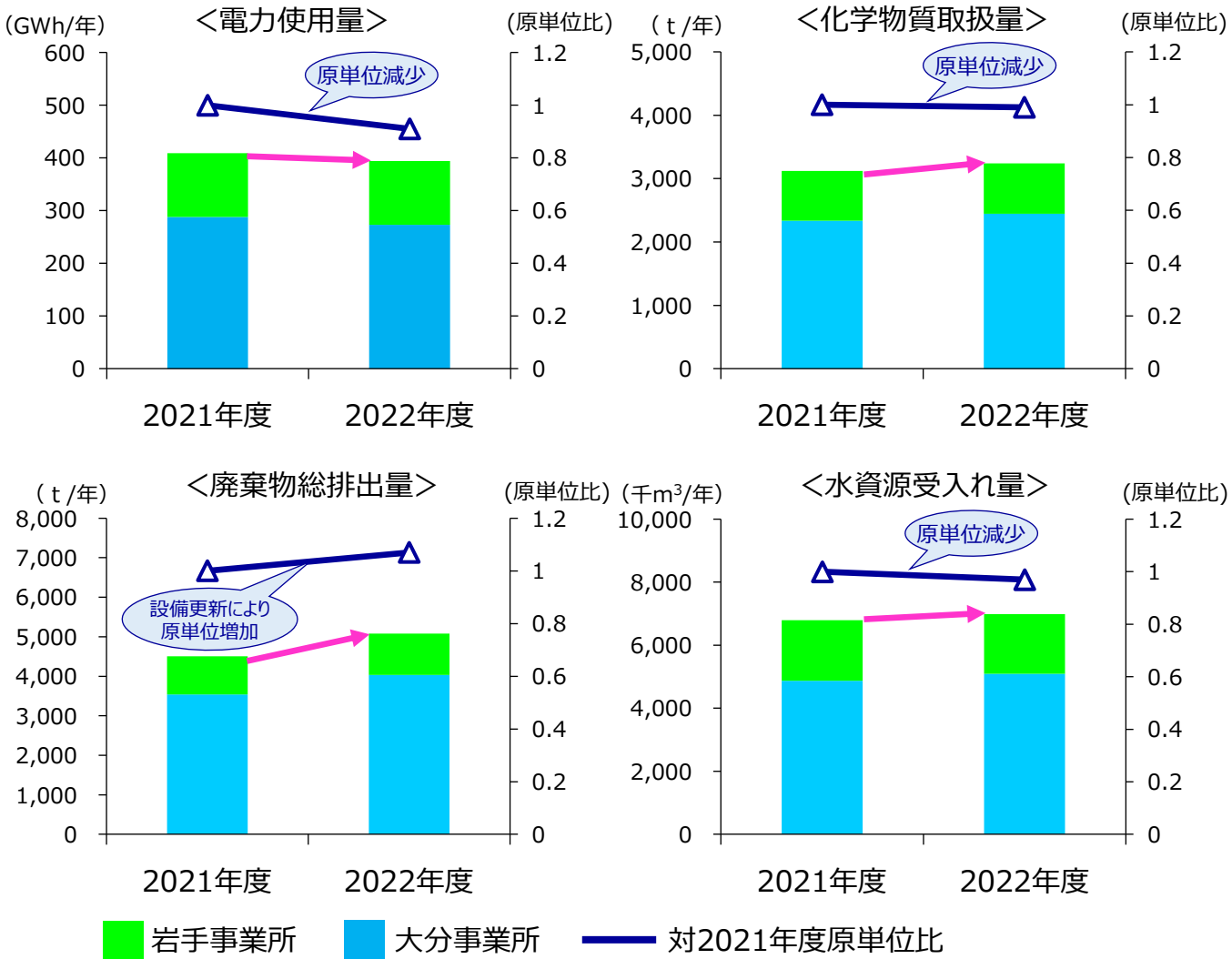


〈3全3現主義〉

- 3全  
全域の全設備を  
全員で管理
- 3現  
現場で現物を見て  
現実を管理

## □ 事業所の環境負荷状況

生産は増加傾向だが、原単位が減少するよう、使用・排出共に最小限となるための削減施策を実行



# 従業員環境教育

## 職能や専門性に依じたカリキュラムで教育

| 区分    | 教育名        | 対象者          | 内容                        |
|-------|------------|--------------|---------------------------|
| 階層別教育 | 環境一般教育     | 全従業員(常駐会社含む) | 環境目的・目標、環境法令等(e-learning) |
|       | 新入者/転入者教育  | 新規採用者/転入者    | 地球環境問題・当工場の取組等(集合教育)      |
| 職能別教育 | 特定従業員教育    | 特定業務従事者      | 特定作業の手順を逸脱した場合の環境影響等      |
|       | 内部環境監査員教育  | 内部環境監査員      | 監査員の役割と責任、監査手順等           |
|       | 環境部門リーダー教育 | 新規の環境部門リーダー  | 環境マネジメントシステム、リーダーの役割等     |

### 2. 環境目標

(JSC)目標値を達成すべく、(若手)(大)

| 項目           | 指標               | 23(JSC) |
|--------------|------------------|---------|
| PFC総排出量の抑制   | 総排出量 t/年 ↓       | 100     |
| 廃棄物総排出量の抑制   | 総排出量 t/年 ↓       | 6,0     |
| 廃棄物量の抑制      | 廃棄物量 t/年 ↓       | 5,7     |
| 水資源受入れ量の抑制   | 水受入れ量 km3/年 ↓    | 8,2     |
| 化学物質排出量の抑制   | 大気排出量 t/年 ↓      | 5,0     |
| 化学物質取扱い量の抑制  | 薬品購入量 t/年 ↓      | 3,8     |
| エネルギー起因CO2削減 | CO2削減量 t-CO2/年 ↑ | 1,6     |

### 3-3. 環境関係法令(省エネ法の改正情報)

★旧名称:「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」  
 新名称:「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換に関する法律」(通称:改正省エネ法) 令和5年4月1日施行

改正省エネ法の主な見直しポイント

①すべてのエネルギーの使用の合理化(エネルギーの定義変更)  
 ⇒改正後は、太陽光や風力発電などの電気も無駄に出来ない  
 ※旧例:化石エネルギー(燃料、熱、電気) ⇒ 改正後:化石エネルギー+非化石エネルギー(太陽光、風力、水力)

②非化石エネルギーへの転換  
 ⇒改正後は、非化石エネルギーに関する定期報告書、中長期計画書の作成が義務化  
 ※旧例:再生可能エネルギー ⇒ 改正後:非化石エネルギーの使用割合向上、中長期計画作成、輸入エネルギーの転換が義務化

③電気の需要の最適化  
 ⇒再生エネは天候などで発電量の変動が大きいので発電量に応じて使う時間(蓄電池(マッドリスボン)⇒再生エネ発電量に応じて蓄電池⇒再生エネ発電量多い⇒使う時間)⇒再生エネ発電量が少ない⇒蓄電池⇒再生エネ発電量多くなる

### 4-2. 責任と権限(一般者としての役割)

- 省エネ活動の徹底
  - 照明のこまめな消灯
  - 空調の適度な温度管理による節電実施
  - 離席時、パソコンモニター電源OFFの習慣化
- 廃棄物の削減
  - 廃棄物の排出量抑制のための工夫と実践
  - 分別収集の徹底
  - 職場での再利用
- グリーン調達への推進
  - 車之谷グループグリーン調達ガイドラインの徹底順守
  - 環境配慮型商品の購入促進
  - 化学物質購入時、人体、環境に対する十分な事前評価
- 環境負荷低減施策の推進
  - CO2排出抑制及び温室効果ガス削減の削減
  - 化学物質の取扱い及び排出量の削減
  - 水資源受入れ量の削減
- CSR・社会貢献活動への参画
  - 各種市民活動(省エネ、環境、5R等)への積極的参加
  - 社会貢献活動の推進
  - ※社会貢献活動(省エネ、環境、5R等)への積極的参加
  - ※社会貢献活動(省エネ、環境、5R等)への積極的参加
  - ※社会貢献活動(省エネ、環境、5R等)への積極的参加
- 法令等の順守
  - 環境関係法令のチェック及び内容の理解
  - 行先毎の規制・電石等の実施
  - 大気、水等の排出物における自主基準値の順守

テキストを作成し、全従業員に教育を実施

# 事故・緊急時を想定した訓練の実施

## 当社従業員の他、常駐会社も訓練に参加



移送ポンプ吐出フランジからの薬品漏洩を想定



常駐会社も参加し、対応手順を確認

# 社内環境広報紙の定期発行

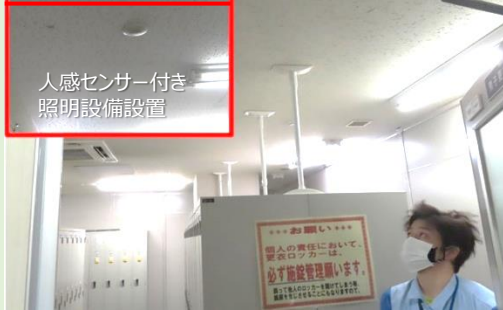
## 環境活動の状況を従業員に毎月伝え、各種情報を共有





□ **従業員の環境意識向上活動**  
一人ひとりの意識が企業を支える

〈岩手事業所〉  
省エネパトロール



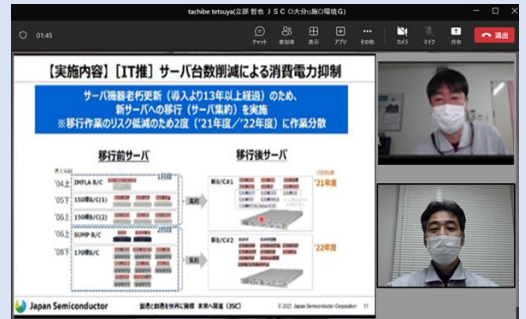
事務所、会議室の省エネ取組について、社内で情報共有を図る

**リサイクル工場見学**



リサイクルの様子を見学し、分別や5Rの大切さを学ぶ

〈大分事業所〉  
省エネ事例をLiveで紹介



部門の省エネ事例をリモートで中継し、従業員へ紹介

**構内フラワーギフト**



行政から頂いた花の苗をプランターに植栽し、各職場で育生

□ **環境社会貢献活動**

地域との「ふれあい」を大切にし、社会に貢献する環境活動を実践

ペットボトルキャップの寄付



岩手事業所51kg、大分事業所68kgを近隣企業に寄付

チャリティフードの寄付



大分事業所：従業員から集めた米200kgと食品等613点を寄付

ボランティア清掃



岩手事業所：従業員411名による市街地清掃活動を実施

半導体環境授業



大分事業所：近隣小学校へ出向き、半導体環境授業を実施

## 2022年度 表彰

令和4年度「省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞」受賞



大分事業所：「事業所内の蒸気供給最適化による省エネ活動」の取組において、省エネルギーセンター会長賞受賞

令和4年度「ごみ減量・リサイクル推進に関する優秀団体表彰」受賞



大分事業所：100%リサイクル、従業員へのリサイクル意識の醸成、各種業務のシステム化による紙の削減等の取組において受賞

令和4年度「花いっぱいコンクール」優秀賞受賞



岩手事業所：従業員が管理している花壇において、優秀賞受賞

## 表彰実績

2021年度

「第11回キャリア教育アワード 奨励賞」

(大分事業所)

「令和3年度地域環境美化功績者表彰環境大臣賞」

(岩手事業所)

2020年度

「令和2年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」

(岩手事業所)

2019年度

「環境 人づくり企業大賞2019 優秀賞」

(ジャパンセミコンダクター)

## 情報公開

環境レポートの他、webサイトでも各種取組を公開  
(2次元コードを、スキャンまたはクリック)



◆東芝グループ環境未来ビジョン2050

東芝グループホームページより



◆カーボンニュートラル関連

東芝グループホームページより



◆当社の環境報告書

当社ホームページより



◆2022年度 省エネ大賞

省エネルギーセンター会長賞を受賞

当社ホームページ



◆「生物多様性保全活動」紹介

岩手事業所 活動

東芝グループホームページより



◆「生物多様性保全活動」紹介

大分事業所 活動

東芝グループホームページより